

2021年度 標準化委員会 公開講座「オリンピック開催年に考える標準化」実施報告

(公社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
標準化委員会

「標準化」という言葉に馴染みのない人も、「ピクトグラム」ならきつとご存知ではないでしょうか。2022年2月5日に開催した公開講座では、「オリンピック開催年に考える標準化」と題して、2020東京オリンピックの開会式で話題となったピクトグラムをテーマに掲げました。

第1部では、経済産業省国際標準課の小松由紀課長補佐から「暮らしの中の標準化 ～なぜ標準化が必要か～」と題してご講演いただきました。身の回りにある標準化の事例にはどのようなものがあるかというところから始まり、わかりやすさ、使いやすさ、品質・信頼性・安全性の確保といった標準化の役割や、JIS 制定のプロセス、国際規格整合化の必要性など標準化の基本知識に関する解説がありました。また、令和元年7月から日本工業規格が日本産業規格に変わり、JIS の対象分野がモノからサービス・社会システム・環境などへ大きく広がってきています。介護分野などで利用されるロボットサービスの安全管理に関する規格が JIS Y1001 として制定されたことや、自動運転や海洋プラスチックごみ問題に関する国際標準化の議論が始まっていることなど最新の標準化動向に関するお話もあり、新たな知見を得ることが出来ました。

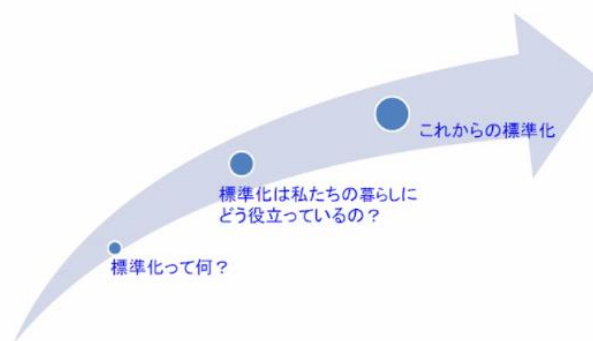
第2部で講師としてお招きした児山啓一氏は、デザイン事務所の代表として空港や駅で掲示される公共サインのデザインを数多く手掛けられるとともに、ISO および JIS の案内用図記号の委員を務められています。ピクトグラムは、学習しなくても誰にでもすぐ分かるといった利点を持ち、標準化することで共通理解を得ることが出来ます。しかし、国際的な標準化の過程では、温泉マークのように文化の違いから整合性をはかることが出来なかったものもあります。また、国内でも、近年話題にのぼることの多いジェンダーの問題では、ベビーカーを押すのは女性だけか、LGBTQ の人たちのことも考慮した公共トイレのサインはどうあるべきか等々、社会的背景を踏まえたピクトグラムの議論が必要になってきています。オリンピック競技用のピクトグラムの変遷など興味深いお話も交えながら、共通理解のための標準化とは何かを考えさせられるご講演でした。

ちょうど冬季オリンピック開会式翌日の開催で時宜にかなったテーマであったこともあり、会員・一般を含め50名以上の方にご参加いただくことが出来ました。これからも標準化に関する身近なテーマを取り上げて、広く一般の方々に標準化について知っていただける機会をつくっていきたいと思います。



経済産業省 国際標準課
小松由紀課長補佐

目次



株式会社アイ・デザイン代表
見山啓一氏

自己紹介

見山 啓一

- 株式会社 アイ・デザイン 代表
～公共サインのデザイン
- ・ 成田、羽田国際線、関西国際空港 他
- ・ JR東海、JR西日本、京浜急行 他
- 図記号関連
- ・ ISO/TC145/SC1案内用図記号 委員
- ・ JIS 案内用図記号
- ・ JISコミュニケーション支援用絵記号
- ・ 世界のピクトグラム図鑑 出版

